

■韓国：釜山市民の半数以上が原発に不安

釜山・環境運動連合（Busan-KFEM：Busan-Korea Federation for Environmental Movement）は2011年6月2日、傘下の研究機関を通じた釜山市民1,000人へのアンケート調査の結果について、市民の58.6%が原発に危機感を感じていると発表した。不安を感じる主な原因は、釜山市に原発が集中していること、古里原発が一時停止したことなどとしている。「一時停止した古里原発1号機の閉鎖に賛成」は42.8%であった。今後の原発政策について、「原発を段階的に閉鎖し再生可能エネルギーに代替すべき」が39.5%、「運転中の原発は稼働するが新設しない」が21.4%となっている。「原発計画を推進すべき」は7.4%にとどまった。日本からの放射能の影響に関しては、「不安を感じている」が60.7%、「日本の農産物を購入しない」が59.7%となった。